

# 目指せ！小麦の単収・品質向上

最寄りのJA又は府県農業普及指導機関にもご相談ください

## ①排水対策の徹底

湿害による減収を回避させるためには過剰な水を速やかにほ場外に排出する必要があります。排水対策を徹底し、出芽・苗立ちの安定と生育・登熟の向上を図りましょう。

### 額縁明渠

明渠と排水口は確実に  
つながっていますか？



逆勾配になっていませんか？



浅い部分は  
ありませんか？



**明渠と排水口を確実につなげ、土地の高低差を意識した明渠づくりに努めましょう！**

※水稲あとの麦作の場合、水稲収穫後に速やかに明渠を施工すると効果が高くなります。

明渠では排水性が改善しない排水不良田の場合、  
さらなる排水対策が必要です！

### 暗渠



カットドレーン等により  
地下水位を下げる

### 耕盤・心土破砕、深耕



サブソイラーやプラウを用いた透水性、通気性の改善



**地下水位や土質など土地の条件に適した排水対策が大切です！**

機械は様々なタイプがあるので、ほ場条件や経営規模に合わせて選択しましょう。



## ②適切な赤かび病防除

麦類赤かび病は、麦の品質低下や減収の要因となるだけでなく、人畜に有毒なカビ毒(デオキシニバレノール、ニバレノール)を作ることがあります。日本では、生育後期に降雨が多いため、赤かび病が蔓延し、麦が汚染されてしまう恐れがあります。

### 開花期の薬剤散布



開花期の麦

赤かび病を防ぐためには、小麦の感受性の高い時期である**開花を始めた時期から開花期(1穂につき数花開花しているものが、全穂数の40~50%)**に必ず、最初の防除を行う必要があります。

**発病を防ぐには適期防除が大切です！**

### 追加防除



赤かび病が発生した小麦

気象条件、過去の被害状況に加え、普及指導センター、農業団体等からの各種情報や、品種の特性を考慮して、必要に応じて追加防除を行います。**開花期の薬剤散布が適切に行われている場合、開花10日後から20日後の追加防除が有効です。**

薬剤の総使用回数や使用時期等の使用基準を遵守ください。

**追加防除でかび毒の蓄積を抑制しましょう！**

### 適期収穫



**刈り遅れにより、かび毒の濃度が高くなる傾向**があります。小麦の収穫適期は年により大きく変動するため、気象状況や普及指導センター、農業団体等からの情報に注意し、計画的に収穫します。収穫後は適切な作物残渣処理を行います。また、赤かび病が発生した圃場では、被害麦と仕分けして収穫を行う必要があります。

**適期収穫でかび毒の低減に努めましょう！**

「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル」(発行:(国)農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター)では、麦類のかび毒の汚染防止、低減対策のポイントを紹介しています。是非ご活用ください！



協力:国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
中日本農業研究センター、西日本農業研究センター、九州沖縄農業研究センター  
作成:近畿農政局 生産振興課(令和7年5月)



麦の診断  
楽々ナビゲーション